関西女性活躍推進フォーラム第７回会議　開催結果（概要）

１　日　　時　令和３年 12 月 13 日（木）　10:30～11:30
２　開催形式　オンライン
３　出 席 者　37 名（別紙のとおり委員出席 28 名、代理出席９名）
４　内　　容
（１）講演：統計からみた基礎自治体の少子化・女性活躍
（兵庫県三田市 市長公室 若者のまちづくり課長　千原洋久氏）

質疑：

三崎委員：　女性の働きやすい環境の整備に当たり、クラウドワークやサテライトのオフィスの誘致は、実際には難しいと思うが、具体的に進めるポイントは何か。

千原氏：　確かに企業誘致は大変難しい。どんなベンチャー企業があるのか把握するところからして難しい。ただ、同じ部署で産官学連携も所管しているので、コンサルタントを挟んで新しいビジネスモデルの実証実験を希望する企業を呼び、関係人口化している。そこからチャンスを得て、雇用や女性活躍推進に結び付けていきたいと考えている。

長町委員：　市役所でデータを見るという取組を始めて、職員や市民の意識にどんな変化がみられたか。

千原氏：　データはまだ積極的に外部へ出していないが、市役所内部では、財政課との予算折衝において、具体的なデータをもとにすると進めやすいと聞いている。また、これから市民に対し、危機感を共有していただいた上で、一緒にやりましょう、と言っていく上で、データの整理は重要。

松田委員：　男性の通勤時間が長く家事に時間が取れないから女性の就労が少ないのではないかとのことだったが、男性は市外で働く人が多いということか。

千原氏：　三田市は JR 大阪駅まで 40 分、神戸までも 40 分。これらの都市に通勤する人が多い。

松田委員：　女性が助けてもらえないから就労が少ない状況なら、保育園等の整備についてはどうか。

千原氏：　保育園も整備し、待機児童は県内では少ない方。しかし若い母親の求職活動が少ない。はなから就職をあきらめているのか、ヒアリング等で確認が必要と考えている。

松田委員：　安心して子どもを預けられるなら働きたいという女性も多いと思うので、行政が女性と話をして、積極的に女性が外に出られるようにするとよい。

渥美委員（チャット）：　三田市は、私のケース分類では以下のタイプではないか。都市部のベッドタウンで全国的にみると裕福な地域で、片働き世帯が多く、若い女性世代の中には主婦だった母親をロールモデルにする人たちが多いため、就労意識が低い。逆に、男性たちは妻を扶養家族として養う経済力は持てないと考える人たちが多いため、ミスマッチが起きている。そういう地域では、そもそも住民意識の変革と、地域内企業の中で女性が活躍している企業を発掘するとともに、WLB に取り組む企業を育成していくことが重要。

私は岐阜県の都市部と東京都の三鷹市で、それぞれ10年間と５年間、地元の社会労務士等の専門家たちをコンサルタントとして養成し、企業に働きかける事業をお手伝いしてきたので、そういった取組事例も発表いただく場を設けるとよいのではないか。

（２）協議：「オンラインシンポジウム」の開催について
テーマ：今なぜ「男性版産休」？（仮題）（育児・介護休業法の改正を受けて）

質疑：
前田座長：　シンポジウムのテーマは。
事務局：　「なぜ今『男性版産休』？」にしたいと考えている。
成田委員：　シンポジウム当日の都合がつかない場合、後で視聴できるか。
事務局：　YouTubeで後日配信できるようにしたい。
西平委員：　チラシはあるか。
事務局：　今後作成する。作成したデータを皆さんにダウンロードいただく予定だが、印刷物が必要ということであれば、要望をいただければ送付する。１月中には作成する。
渥美委員（チャット）：　昨年度、内閣府が実施したワークショップでは、アドバイザーとしてモデル自治体の取組への助言、コメント等を行った（「少子化対策地域評価ツール」を活用した事業推進等に関する調査研究事業）。昨年度のモデル事業は鳥取県と三重県で実施した。モデル自治体であった日野町や南部町に事例発表していただくとよいのではないか。

（３）報告：関西女性活躍マップの更新予定について

質疑：なし

（４）情報共有：関西女性活躍推進フォーラム構成団体における取組について
大阪商工会議所、大阪府男女参画・府民協働課から口頭説明。
他の団体については資料に記載のとおり。

質疑：なし

以上